

かわさき区の宝物シート

宝物No.	ころんぴあ・ねおんとう
31-1	コロムビア・ネオン塔

思い出

エリア	—	シーズン	—
	—	日時	—

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



昭和6年当時のコロムビア川崎工場全景図



写真提供：日本コロムビア(株)

所在地	川崎市港町5-1（現在は撤去）
問い合わせ	日本コロムビア株式会社 (東京都港区虎ノ門四丁目1番40号江戸見坂森ビル)
TEL	03-6895-9001（代表）
FAX	03-6895-9115（広報）
E-mail	
URL	http://columbia.jp/company/corporate/history/index.html (日本コロムビア株式会社/会社沿革)
交通	京急大師線港町駅下車



基礎情報

■昭和6年(1931)3月、(株)日本蓄音器商会（後の日本コロムビア(株)）川崎工場の屋上に、広告塔として「音符」マークのネオンサインが完成した。東洋一の大きさを誇り、震災後に再建された当時の川崎工場群を描いた全景図にもネオン塔が記されている。第二次大戦中は撤去されていたものの、東京都内から帰宅する川崎市民にとって、わが街に戻ったことを実感させる「東海道線のシンボル」となり、多くの人々に親しまれた。

■平成11年(1999)11月、ネオン塔は新装され、直径11mと少し小振りになったものの、以前より目立つ仕掛けが取り入れられ、日没前から午後11時まで鮮やかな光を放っていた。しかし、平成14年(2002)、川崎工場の生産本部事業の分社化に伴い、多くの人々から親しまれたネオン塔は惜しまれながら撤去された。

由来・エピソード

■日本コロムビア川崎工場（当時の日米蓄音機製造(株)）は、川崎に進出した近代産業の草分け的存在として、明治42年(1909)4月に操業を開始した。5月には国産第1号となる10インチの片面盤の円盤レコードを発売し、翌年には国産蓄音器第1号「ニッポノホン」の製造・販売を開始した。そして大正3年(1914)の松井須磨子の『カチューシャの歌』以降、並木路子の『リンゴの唄』、古賀メロディー、美空ひばりのヒット曲など数え切れないほどの歌謡曲や、その他の邦楽、洋楽、クラシック音楽など、思い出に残る名曲がこの工場で作られ、出されていった。

■地元川崎出身の詩人で、『赤城の子守歌』『六甲嵐』『男の純情』『青い背広で』などの歌謡曲作家としても名を馳せた佐藤惣之助は、後年コロムビア専属作詞家として『湖畔の宿』『燃ゆる大空』などを手掛けている。

■なお、昭和32年(1957)に発売された美空ひばりの『港町十三番地』（日本コロムビア）は、具体的な地名は歌詞に出てこないが、今の港町5丁目付近を歌った曲といわれている。当時の日本コロムビアの所在地は「九番地」だったが、ゴロが良いことから「十三番地」にしたとの説も残る。

補足・その他

■平成14年(2002)、日本コロムビアはコロムビアミュージックエンタテインメント(株)と社名変更したが、平成22年(2010)に創立100周年を迎え、社名を再び日本コロムビア(株)とした。川崎工場の生産本部事業は、コロムビアデジタルメディア(株)として分社化後、平成17年(2005)に売却。

関連シート

(5-4)京浜急行大師線 港町駅
(30-1)ニッポノホン
(32-4)佐藤惣之助

※「思い出」のシートでは、今は無くなってしまいましたが、後世に語り継いで行きたい宝物を紹介しています。

「かわさき区の宝物」とは？ <http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html>